

私のお薦めコーナー 安心して自然を堪能できる散策路 札幌近郊の自然公園『滝野すずらん丘陵公園』

知 本 康 男

1. ロケーション

今回紹介させて頂くサイトは札幌市民であれば足を運ばれた方が多いと思う『滝野すずらん丘陵公園』です。札幌市の南区と清田区を結ぶ道道 341 号真駒内御料札幌線が一番南下したあたりに広がる公園で、厚別川を挟んでモアイ像で有名な滝野霊園が対岸に位置します。本公園はなんと道内で唯一の国営公園です。そのため園内整備や公園運営は非常に充実しており、四季を通じて楽しめる公園としてファンが多くリピーター率が非常に高いと聞きます。

“滝野公園”と呼称する人が多いのですが、正式名称は上述したように本公園のシンボルフラワーの“すずらん”とそして“丘陵”の言葉が入ります。昔はアシリベツの滝がある公園として釣り堀を楽しむ溪流公園でした。ところが国営化に伴いむしろ丘陵性山地の自然を巧みに生かす自然体験活動型のコンセプトで整備されたので“丘陵”が付いても違和感はありません。ちなみにこの丘陵を構成する地質は、(皆さまご存知の)支笏軽石流堆積物 Spfl です。

2. 四つのコンセプトゾーン

図-1 は本公園の概略マップです。手作りですので敷地境界線などの精度はご容赦下さい。園内への入場口は 3 箇所あります。道道 341 号から入場する『溪流口』はサイクリングや釣り堀を楽しむ方、おなじく『鱒見口』はバーベキュー(炊事)や遊戯施設を利用する方、少し離れますが『滝野の森口』は昆虫採取や自然を散策される方が多いようです。

園内は四つのコンセプトゾーンに分かれています。はじめに溪流ゾーンは、主要な 4 つの滝よりも下流域のエリアに相当します。ここではレンタサイクルや売店、食堂(焼肉)、釣り堀、炊事広場などがあ

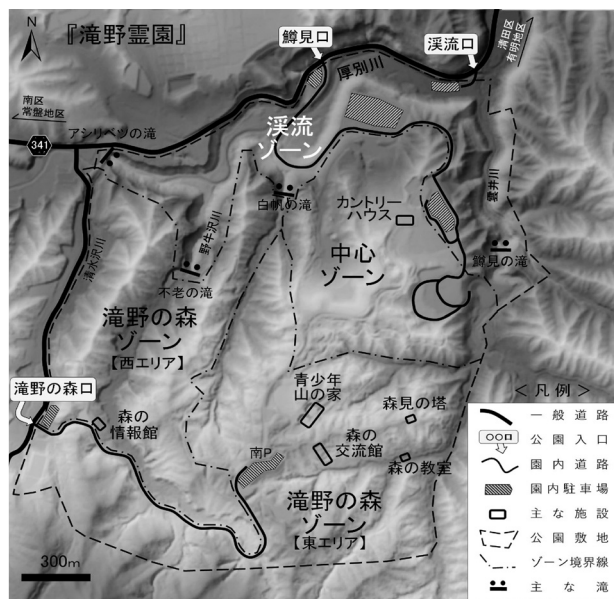


図-1 滝野すずらん丘陵公園の概略マップ

り、それぞれの滝へのアプローチ道路が整備されており、まさに溪流公園の要素が強いゾーンです。つぎに中心ゾーンには子供が喜ぶ遊戯施設が充実しており、子育て世代にはご用達のエリアです。冬季にはちびっ子用のスキーゲレンデやチューブそりで大変賑わっています。またこのゾーンには昨今のキャンプブームもあり度々 TV で紹介されるオートキャンプ場もあります。

さて、最後の滝野の森ゾーン【東エリア】と【西エリア】が、本稿のお勧め案件になります。ここでは前述した二つのゾーンに比べ、より身近に自然を体感しながら安心安全に園内を散策することが出来ます。ここへのアプローチは奥側の滝野の森口から入園することになります。

3. 安心安全な散策路

写真-1 に滝野の森ゾーンにおける散策路の様子を示します。幾つかの施設を維持管理するための最低限の道路は舗装されていますが、それ以外は原則として自然歩道となります。ただし、斜面には木製角材を使用した階段路、湿地状の溪床では幅広の木道が整備されています。階段路の角材はしっかりと地山に固定されており足元に不安はありません。木道には随所に補修した形跡があり、維持管理が徹底されているのでしょうか。安心して歩行できます。また、溪床面を蛇行する流路(河道)を保護するように

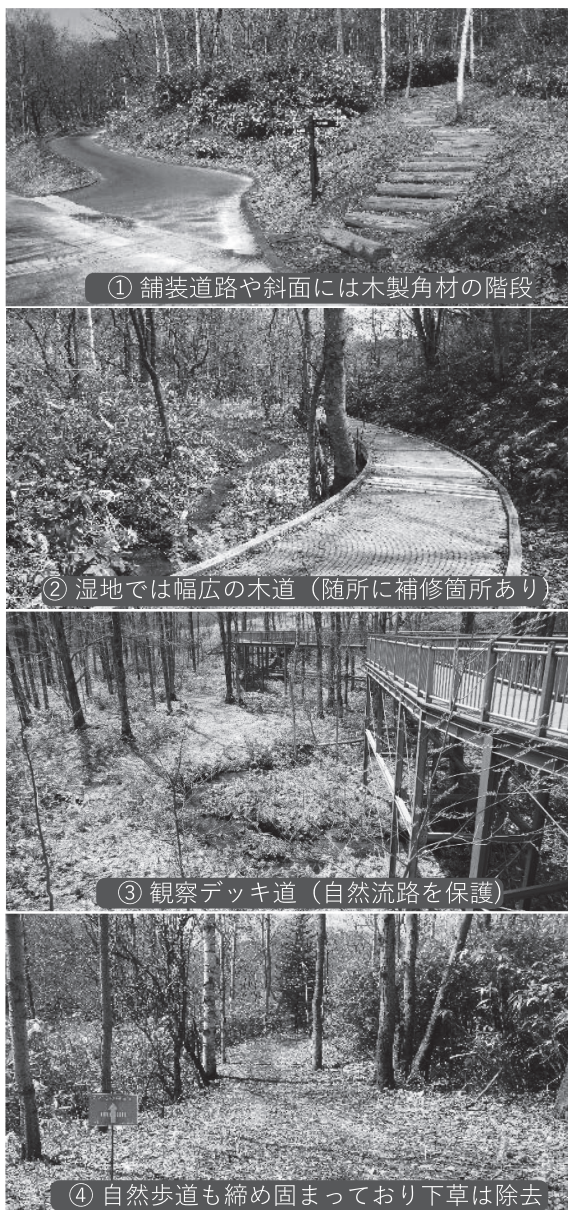


写真-1 公園内の散策路いろいろ

デッキ道が整備されているところもあります。

私が安心して散策できる理由はずぎのとおりです。前述したように散策路は周到に整備(補修)されている。山中でも道しるべ(グラビア参照)が要所に設置されており迷子はありません。熊対策が徹底されており、その情報発信もオープンである。園内随所にアナウンススピーカーが設置されている。水洗トイレも要所に設置されている。汚れた靴を洗浄する設備もある。ざっとこんな感じです。話は少しズレますが、私は冬季の晴天時にぶらっと一人で歩くスキー(クロスカントリー 10km 程度)を楽しみに来園します。そのコースにも標識が多いことと緊急時の電話連絡番号が頻繁に掲示されています。勿論、スマホは全コースで使えます。単独の山中での運動ですのでとても安心できます。

4. お勧め散策路

いよいよお勧めの散策コースをお知らせします。最初に【東エリア】です。まずは滝野の森口から入園して南駐車場まで進んで下さい。そこから尾根沿いに10分程度歩くと森見の塔(写真-2)に到着します。まずはそこからの眺望をお楽しみ下さい。そこから遠望できる山々の名称はあえて本稿では言及しませんが、屋上階には解説図が掲載されています。ひとつだけ写真-3のように普段札幌市内から遠望する手稲山とは一味異なる山容を眺めることが出来ます。こんな風貌の森見の塔ですが、内部にはエレベーターが配備されていますよ。



写真-2 『森見の塔』の全容

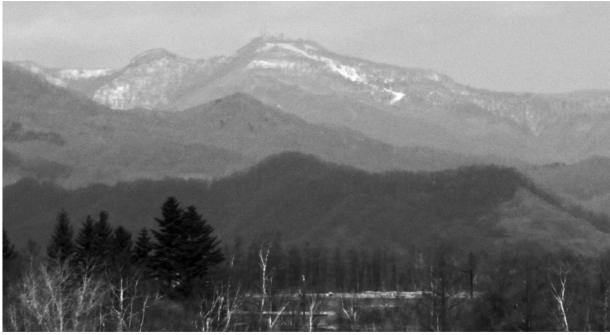


写真-3 森見の塔から遠望した手稲山

つぎに森見の塔から南側の沢に木製階段で下って森の教室から森の交流館(写真-4)までの溪床ルートを歩きましょう。ここでは野鳥のさえずりと小川のせせらぎを聴覚で感じ取ることが出来ます。時々南側へ延びる枝沢の歩道に足を踏み入れると、より醍醐味が増します。森の交流館の中を通過して駐車場に戻りましょう。



写真-4 『森の交流館』を沢下から望む

つぎに車を滝野の森口駐車場まで移動して、森の情報館から裏手の溪床に降りると観察デッキがあります。そこから不老の滝に向かって下流に進むと、かつての入植者たちの苦労の痕跡が見られます。反対に観察デッキから遡行すると小河川の様々な力学的現象(蛇行や河道争奪)を観察することが出来ます。写真-5 には蛇行して流下する小河川の様相を掲載します。カーブ外側の攻撃面(※1)で地山を侵食し、カーブ内側の滑走面(※2)では運搬された細礫を堆積させている状況が教科書のように見取れます。こういう発見も自然を体感する一面ですね。



写真-5 蛇行する小河川の様相

5. さいごに

お勧めした散策ルートは、普段から歩き慣れた方であれば半日コースです。公園内と言っても自然環境を軽視してはいけません。歩かれる際の服装や給水準備には十分に留意して下さい。最近の山歩きで一番怖いのは、ヒグマでもマムシでもありません。スズメバチです。十分な害虫対策を講じてから自然に身を投じてください。

さて、今回の投稿文では公園名称となった“滝”の写真と解説を割愛してしまいました。やはり札幌市内最大級の瀑布ですので、是非現地にてマイナスイオンをご堪能あれ！最後にお盆と彼岸時の道道341号は大渋滞が予想されますことお忘れなく。

ここで追加報告です。本誌第151号のお勧めコーナーで“メノウ拾い”を紹介しましたが、このGWに訪ねたところビーチ背後の斜面が大きく崩壊しており、お勧めビーチが寸断されていました。崩壊土砂を歩いて超えるのは危険ですので、一旦“お勧めビーチ”は撤回させていただきます。



知 本 康 男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

